

令和3年度 学校評価報告

草加市立氷川小学校
(令和4年1月13日作成)

1 学校教育目標 「学びあい 助けあって 自分を高める」 目指す児童像 ○ひ ひかる汗 (体) 高めあう子 ○か 耀く瞳 (徳) 高めあう子 ○わ わかる喜び (知) 学びあう子	
2 重点目標・努力目標 ○子どもたちが伸びる学校 ・基礎・基本の定着、授業時間の確保 ・一人一人のコミュニケーション能力の向上 ○子どもが生き生きとする学校 ・あいさつあふれる明るい学校づくり ・保護者・地域と共に歩む学校づくり ○幼保小中を一貫した教育の推進 ・谷塚中学校区一貫教育の強化・推進	3 前年度の成果と課題 成果 ○コロナ禍で工夫をしながら計画的に確実に学習指導を行うことができた。 課題 ●コロナ禍に対応する柔軟な指導計画を作成し、単元の入れ替えや時数配分の見直しが必要であった。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○全職員で経営方針、目指す児童像を共通理解し、教育活動を行った。 ○コロナ対策や生徒指導等の課題について組織的に対応した。 ○確実に正確な予算執行を行った。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○研究授業を行ったことで、思考ツールの活用や道徳の授業改善などができた。 ●コロナ禍もあり外部の方の参観や指導をいただく機会が十分でできなかった。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○安全点検を計画的、日常的に行い、すぐに対応することができた。 ○コロナ対策を徹底し、児童の健康管理を行った。 ○コロナ禍における熱中症、水泳学習時の危機管理マニュアルを見直した。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○個人情報の管理・保護を確実に行うことができた。 ○各教科主任が特別教室の備品の整備・点検を確実に行った。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○コロナ過での学校の様子や感染防止対策の取組を学校HPで随時に公開した。 ○オンラインによる授業参観、懇談会を行った。 ○学校運営協議会(4回)でコロナ過での取組や学校の課題について協議を行った。 ●PTA活動や学校参観行事が制限された。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○谷塚中学校の教員の乗り入れ授業で、専門的な知識・技能を6年生が学ぶことができた。 ●コロナ過で幼保の園児や中学校の生徒との直接的な交流が中止になった。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<p>○コロナ禍で予定していた教育活動の制限、中止があったが、何ができるか工夫し、可能な限り実施することができた。</p> <p>●一つ一つの活動に目的意識をもって取り組ませ、自己肯定感を向上させていきたい。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<p>○一人一台のタブレットやICTの活用により授業の幅が広がった。対話活動が難しい中、タブレットを使って意見交換することも実施した。</p> <p>●コロナ禍で家庭科や音楽の活動は制限され、限定的な内容となった。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<p>○道徳科の校内研修では、外部指導者を招き、研究授業、研究協議を通して、授業づくり、評価について学ぶことができた。</p> <p>●地域の方に入ってもらうことで、学校・家庭・地域で共に児童にとって大事な心の部分をさらに育成していきたい。</p>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<p>○日付・曜日の英語掲示を全教室に掲示し、日常的に英語に慣れ親しませることができた。</p> <p>○本校の特色である教科なので、継続して研修したい。</p> <p>●コロナ禍でEタイムの活動が大幅に制限され、学年間で取り組み方の温度差が大きくなった。</p>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<p>○回数は少なかったが縦割り活動やクラブ活動は、自己有用感を高めるよい機会になった。</p> <p>●コロナ禍で削減された行事が多く、取り組み方の工夫をしていく必要がある。異学年交流が制限された。</p>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<p>●コロナ禍で計画通りにできなかったことがあった。柔軟な工夫で内容を変更しても充実したものとなるようにしたい。</p>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○問題が生じたときは、学年で報告・連絡・相談し、組織的に対応できた。生徒指導委員会で情報共有がしっかりと行われていた。</p> <p>●ベテラン・中堅の技術を若手に伝えていく機会をつくりたい。</p>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<p>○体育の授業を担当してもらい、中学の学習規律や指導の仕方を学ぶことができた。</p> <p>●キャリア教育について、指導内容等全体で共通理解を図る必要がある。</p>
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<p>○通級、特別支援学級ともに人数が増える中で、保護者の意向に寄り添いながら支援計画、就学相談を行うことができた。</p> <p>●通常学級内での支援や、困り感のある児童への対応等を更に全職員で研修していきたい。</p>
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<p>○学校図書館や中央図書館サービスが充実しており、率先して読書をする児童が増えた。</p> <p>○読み聞かせボランティアの方によるオンラインの読み聞かせは効果的であった。</p>
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<p>○緊急事態宣言中に実施したオンライン学習は、不安もあったが、研修を行うことで無事実施できた。教員も児童も操作技術が向上した。</p> <p>○一人一台タブレットを各教科で積極的に活用した。</p> <p>○各朝会、会議等でオンラインを活用できた。オンラインによる授業参観も初めて実施した。</p>
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<p>○夏季研修において、人権教育・同和問題について全職員で研修できたことはよかった。</p> <p>●普段の学級の中で、一人一人を大切にする教育の実践を進めていきたい。</p>	

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色 ある 学校 づくり	基礎学力の定着	・授業の充実 ・教育計画の工夫 ・家庭学習の充実	B	○授業規律の徹底、基礎・基本の定着を学習指導の基本に置き、各学級で指導した。 ○めあての確認、振り返りの時間を確保した授業づくりを進めた。 ●個の課題を把握し、個別指導を行っていく。
	コミュニケーション力の育成	・授業の充実 ・教育計画の工夫 ・指導方法の工夫と改善	B	○クラスルーム、ジャムボードなどを積極的に使い、児童が意見交換できるようにした。 ●コロナ過で対話が難しい中、感染対策を講じながら、短時間で工夫していく。
	生徒指導・教育相談の充実	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・校内支援体制の整備	B	○生徒指導、教育相談の問題があった際に、管理職、学年、特別支援教育コーディネーターの教員と連携しながら対応することができた。 ○各関係機関と連携し、組織的な対応、教職員の共通理解をすることができた。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- 緊急事態宣言やまん延防止期間での教育活動は、状況によって制限されたり、中止になったり対応の変化が難しいところがあった。特に、体育、音楽、家庭科の学習においては、ねらいに沿った指導ができない時期もあった。
- 一人一台のタブレット配付において、学習の幅が広がり、各教科で積極的に活用した。児童の操作技術も向上し、意欲的に学習する姿が見られた。
- 教職員が仕事に対する熱意や児童に対する温かさを感じることができ、それが校風に表れ、児童が安心・安全に学校生活を送ることができ、学校全体が落ち着いていた。
- コロナ禍で、教育活動の制限、中止もあったが、できることを考え実施できた。
- オンラインを使った学習に抵抗感がなくなった。児童も教職員も保護者も技能が向上した。
- 管理職を含め組織的に協議、対応を行い、様々な課題を解決することができた。
- 氷川小学校の教職員は、皆人柄が温かく、何事に対しても協力的である。気持ちよく相談ができるので、安心して子供たちのために仕事をする事ができている。

6 次年度の改善策

- 新型コロナ感染拡大予防としてオンラインでの集会が多くあった。来年度も同じような内容となることも考え、準備や設定を多くの先生ができるように引き継ぎたい。
- コロナ禍で、ねらいに迫る学習活動や計画に沿った内容が十分にできないこともあったが、児童にどんな力をつけたいのか教員がしっかり理解して計画・実施をしていきたい。
- コロナ過で、地域の方や保護者にどんな活動が公開できるか、また、どんな活動を共にできるか、学校行事やPTA活動を考えていきたい。